

アムール河畔の中国人大虐殺（1900年）

米濱泰英

1900年、天津で外国人排斥運動が起こり、これに日本を含む欧米諸国は8ヶ国連合軍を組織し、北京に籠城して対決した。「義和団事件」である。ロシアはこの事件を機に満洲の占領を企て、大軍を派遣して各地で清国の軍隊、馬賊、義和団と衝突しながら、満洲全土を占領して行った。その過程でロシア軍は、アムール河（黒龍江）北岸の清国領に住む中国人住民3千人を無差別に殺害し、アムール河に流した。ロシア軍はその後もアムール河南岸の街愛琿を襲い、そこの住民2千余人を殺害した。日本の新聞社は多くがウラジオストックに特派員を派遣していたが、ロシア軍が戒厳令を布いたため、本国に記事を送ることができなかった。一方、日本政府はこの虐殺事件の情報を得ていたが、日本とロシアは8ヶ国連合軍の同志であるため、政府は新聞がロシアの蛮行を報道することを禁じた。そのために世紀の大虐殺事件は新聞に報道されないまま終わった。